

# 企業ニュース 信越化学工業

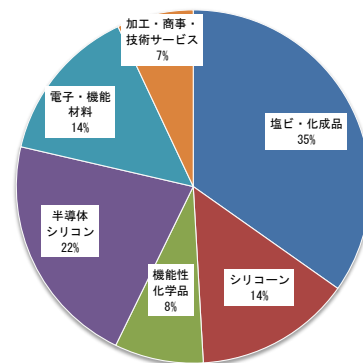
(東証1部：4063) <http://www.shinetsu.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

## 素材化学メーカー、塩ビ、半導体用シリコンの最大手

◇18. 3期売上高構成比

1926年、信越窒素肥料として発足。1940年に現在の社名に改称した。1957年に製造を開始した塩化ビニル樹脂（以下、塩ビ）、1960年に製造を開始した半導体シリコンが現在の主力事業。その他シリコン、レア・アース磁石など様々な製品展開を行う素材メーカー。塩ビは米国シンテック社が主要生産拠点（1973年に米国企業との合弁会社として設立、後に100%子会社化）。2020年内完成を目指し能力増強投資を決定。主原料の1つであるエチレンの自社生産工場も建設中（18年中に完工予定）、同工場ではシェールガスを原料としコスト面でのメリットも享受できよう。半導体シリコンもデータ通信量の拡大を背景に長期的に需要は増加しよう。需要動向を慎重に見極め、長期契約比率を高める施策を推進することで、当社への業績貢献は当面続こう。



(出所) 信越化学工業資料よりCAM作成

## 塩ビ、シリコン両事業が業績をけん引

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が7,917億円、前年同期比14%増、営業利益が2,092億円、同34%増。塩ビ・化成品、半導体シリコンの両事業をけん引役に全事業セグメントで増収増益となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれの項目でも過去最高を達成した。塩ビ・化成品はスプレッドの改善、半導体シリコンは売価の改善が好業績の主因。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が1兆5,600億円、前期比8%増、営業利益が3,900億円、同16%増。上半期の業績を勘案し、売上高で600億円、営業利益で300億円上方修正。足元のメモリ価格下落に伴い、半導体シリコンの採算悪化懸念が台頭しているが、他の事業環境の好調さは継続しており為替の保守的な前提条件（1ドル=105円）なども考慮すれば、通期計画達成は可能であろう。エチレン内製化の利益貢献も期待できよう。決算説明会では増益継続のための施策として計画中の投資案件（シリコン、光ファイバー用プリフォームの生産能力増強、フォトレジスト関連製品工場新設など）以外にも多くのパイプラインを持っていることが示唆された。

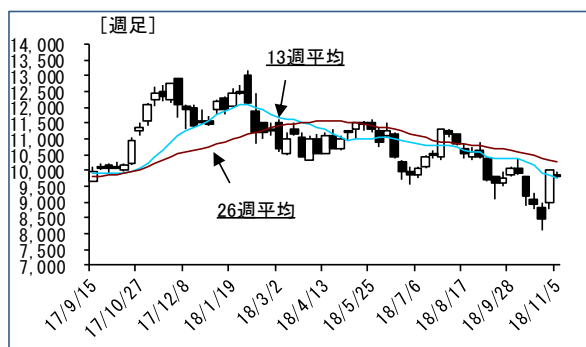
### [株価動向・投資判断]

収益力の高い化学メーカーであり中期的な投資対象銘柄として注目したい。豊富なキャッシュを持つ企業で、今後も的確な成長投資及び利益成長に見合った株主還元にも期待できよう。

<4063 信越化 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,237,405 (▲ 3)	238,617 ( 14)	242,133 ( 10)	175,912 ( 18)	412.9	120.00
18.3	1,441,432 ( 16)	336,822 ( 41)	340,308 ( 41)	266,235 ( 51)	624.3	140.00
19.3 予	1,560,000 ( 8)	390,000 ( 16)	400,000 ( 18)	290,000 ( 9)	679.8	200.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/11/5)	9,856 円
年初来高値(高値日)	13,175 円(18/1/29)
同 安値(安値日)	8,100 円(18/10/25)
予想 P E R (19.3 予)	14.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,748.1 円
P B R	1.71 倍
予想配当利回り	2.03 %
(1株当たり配当金年200.00円)	
R O E (18.3)	11.9 %
発行済み株式数	42,761 万株